

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 茨城県 】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	水戸市立河和田小学校 全校児童
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (水戸まごころタイム) ② 行事名 (パラリンピック講演会) ③ その他 (ゴールボール体験) <p>(2) 地域における活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 イベント名 () 2 その他 ()
4 目標 (ねらい)	「共生社会」をテーマに、オリンピック・パラリンピック教育を行う。児童は、障害をもつ人について、特別な人、助けられるべき人という感覚をもっているが、それを授業、体験活動、講話を通して、障害がある人でも障害のない人と同じように可能性をもつ人という発想の転換につなげていく。
5 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ パラリンピアンによる講話。(11月) (ウィルチェアラグビー日本代表コーチ 三阪洋行様) ・ 各学級において体育館で全校児童へパラリンピックについて授業を行う。教材「I'm POSSIBLE」の活用(1月) ・ 各学級において、ゴールボールの体験活動を行う。(1月) ・ 各学級において車椅子の児童への温かい言葉かけを考え、メッセージカードに記入し、学習前、学習後の児童の言葉かけの変容が分かるよう掲示する。(1月)
6 主な成果	<p>パラリンピック講演会により</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パラリンピックへの関心を高めることができた。 ・ 実際にプレーを見ることで、競技の力強さを感じる事ができた。そのことが、障害への見方を変える大きなきっかけになった。 ・ 障害をもつ人の、障害の捉え方を聞くことができ、自分の考えとの違いを感じる事ができた。(障害は個性の一つ)



ゴールボール体験により

- ・ 障害者スポーツの面白さを感じることができた。
- ・ ルールを工夫することにより、どのような人でも楽しむことができることが分かった。

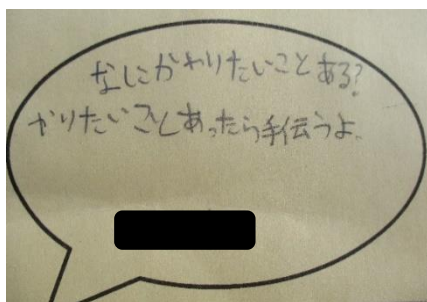


パラリンピックについて授業より

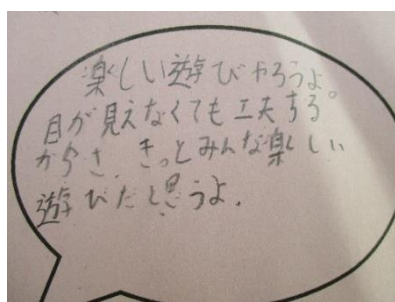
- ・ 障害者スポーツには様々な種類があることがわかった。
- ・ 障害は個性と捉えることができることを知った。

【メッセージカードの記入】

〈 活動前 〉



〈 活動後 〉



7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- ・ 実践を行う前と後とで変容を捉えられるようにした。
- ・ 障害者スポーツやその背景について校内の意識を高めるために、全校児童での学習とした。
- ・ 全校児童が障害者スポーツ体験を行えるようにした。

8 主な課題等

- ・ 講演会を設定するとき、どのようなところに相談すればよいのかが難しかった。また、講演料に見合う実績がどの程度のものなのか目安があると分かりやすいと感じた。
- ・ 障害者用スポーツの器具の購入が、一般スポーツ店ででの取り扱いが少なく、取り寄せになるため、時間がかかった。
- ・ 事業後の評価をどのように行うのかについて。

9 来年度以降の実施予定

本年度は「共生社会」をテーマに行い、特にパラリンピックへの理解が深まった。来年度は、テーマを変え、オリンピック・パラリンピックへの機運をさらに高めていきたい。